

古街道通信

発行 者：古街道PJ事務局

発行 日：令和5年4月吉日

発行責任者：朝倉 俊昭



落野寺の環境と歴史

4月22日（土）。麻生津地区城山遺跡保存会の招待で、落野寺と屏風岩の散策に参加してきました。

新緑の眩しい4月22日（土）。新たに今年度から古街道復元プロジェクト会に参加して、城山の登山道整備を行うこととなった麻生津地区城山遺跡保存会の皆さんから、猿田彦神社（落野寺）とその周辺にある屏風岩の散策会へのお誘いがあったので参加させていただきました。

ところで、現在の猿田彦神社については、昔から伝えられている話によると、明治時代に起こった廃仏毀釈から後に付けられた名称であって、それ以前の江戸時代にはこの付近には、吹野寺があったとされていますが、今となっては猿田彦神社が江戸時代末期の落野寺であるかどうかについては定かではないそうです。

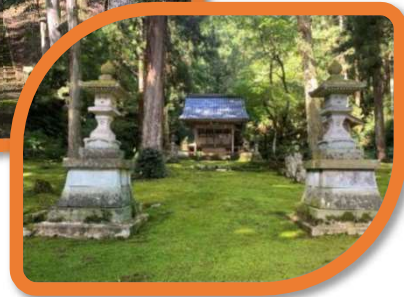
それはさておき、ここからは問題の屏風岩まで散策したことについて、その道中で出会った興味ある情景等についてまとめてみましたので、簡単に報告していきたいと思います。

その前に基本的な知識としてインプットしておきたいのが、昨年行われた城山山頂の発掘調査において、山頂からさらに1mほどの高さにあるマウンドが経塚であろうと発表されました。このことを含めて、城山の立地上、現在の猿田彦神社（落野寺）の後方には経塚があって、さらに周辺には『屏風岩』あるという事は、その昔、当時のこの辺り一帯を治めていた権力者によって造られた何かまとまった施設、あるいは、お城の様な要塞であった可能性は高いということです。

それでは、さっそく散策を行いたいと思います。

まずは猿田彦神社から横方向に移動して、なだらかに山道をアップダウンしながら二つ三つほどの谷を抜けて、沢を上って行くと、随所に自然に出来たものではなく人工的な建造物であろうと思われる場所が至る

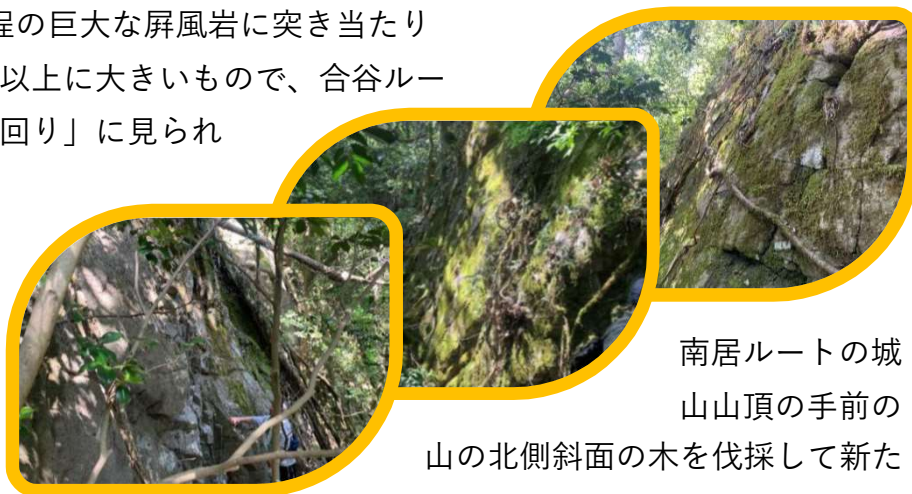
所にあったり、また、合谷ルートにあるような「隠れ田」跡のような自然とマッチした景色も見受けられました。沢の流れを利用した何かの痕跡がある場所をさらに上っていくと、そこに



は高さ約30m、横幅は概ね300m程の巨大な屏風岩に突き当たります。それは、私が想像していた以上に大きいもので、合谷ルート

の「しゃくり滝付近 沢出合い回り」に見られる城壁の様な石垣とそっくりの

岩がずーっと連なっていました。その「屏風岩」の西の端には「泰澄大師が修行したであろうくぼみの岩」まであり、かなりの見ごたえがありました。その「くぼみ岩」を斜めに登っていくと、先日、プロジェクト会で



南居ルートの城山山頂の手前の山の北側斜面の木を伐採して新たに造成した、「社南道守庄展望台」つながる様になっています。

これまでのことをまとめて考察すると、今まで冬野町の情報は乏しくて、城山登山道とその周辺における歴史等の遺跡については未開の地でしたが、落野寺を始め分かっていた史跡を発掘し目覚めさせることで、もっともっとたくさんの点が線となり、そして、それが面としての「城山全体」となることで、他に類を見ない貴重な史跡になるのではないかと思います。(田嶋 則次氏)



これからの活動予定

これからの古街道整備計画、役員会等の活動及び開催予定についてお知らせします。

整備計画

- 5月28日(日) (未決定事項)
麻生津ルートの整備他
- 6月18日(日) (未決定事項)
麻生津ルートの整備他

役員会等

- 5月13日(土) 19:00 杉谷町集会所
令和5年度定期総会
懇親会



編集後記

月末の発行となりご心配をおかけしました。4月は整備作業がなかったことから、地区郷土史家の田嶋氏による、猿田彦神社に関わる話題の特集としました。

また今年度からは、麻生津地区の城山遺跡保存会の皆様も加わってもらい、冬野町からの麻生津ルートの造成を行うことになりました。

古街道通信でも、麻生津ルートの整備状況を詳しくお伝えしたいと思っていますので、よろしくお願いします。(thousand fall)



(バックナンバー)